



道の駅米沢では、屋内だけでなく屋外でもにぎわいを創出するため、西側の多目的広場で「おもしろな市」と銘打ったテント市を開催しています。米沢はもとより置賜地域、交流都市の特産品や名産品を紹介・販売し、お客様に楽しんでいただいています。

また、多目的広場内に設けたステージでは、米沢や置賜地域で活動している皆さんを対象に出演者を募集し、ステージイベントを開催しています。歌やダンス、演武などジャンルは様々で、「おもしろな市」に華を添えています。多くのお客様が訪れる機会に、日頃の取り組みの成果を発表する場、ステップアップ



### 夏休み特別企画

- ① 7月21日(土)・22日(日)  
「ジュラシック・ワールド」の恐竜が登場します。
- ② 7月28日(土)・29日(日)  
「ポケモン」のピカチュウが登場します。

の場としてご利用いただき、お客様にも楽しんでいただけるイベントとして今後の展開が期待されています。

「おもしろな市」は7月以降、定期的(第1、第3土・日曜日)に開催する予定です。夏の行楽シーズンを迎え、県内外から訪れるお客様に楽しんでいただけるよう、7・8月は定期市のほか、お楽しみ企画が盛りだくさんです。

今後、「おもしろな市」の開催に合わせ、テント市の出店者とステージイベントの出店者を募集します(7月の出店者・出演者は随時申込みを受付)。希望者は道の駅米沢ホームページでご確認いただき、お申し込みください。



Takamasa Chisaka  
千坂高雅 (1841 - 1912)



市立米沢図書館蔵

幕末の米沢藩で家老(奉行)として活躍し、明治維新後には石川県令・岡山県令などを歴任した千坂高雅を2回にわたって紹介します。

### ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ エピソード1 名門千坂家に生まれた若き家老

千坂高雅(太郎左衛門)は、天保12年(1841)、米沢藩家老千坂高明の長男として米沢城下の桂町(現松が岬3丁目)に生まれました。高雅の生まれた千坂家は上級家臣の侍組に属しており、代々国家老や江戸家老などの藩の重職を務めた名門でした。

高雅は若い頃から千坂家の

### 幕末の米沢藩を主導し、戊辰戦争を戦った名家出身の若き家老

嫡子として父高明とともに藩政に参画し、軍制改革の建議(二藩皆兵・一家一兵・一兵一銃など)をしています。また、藩校興譲館では学頭となつて講義内容を朱子学から七書(『孫子』など兵書の総称)へと一変させる改革を行いました。

高雅は元治元年(1864)、家督を継ぐと、慶応3年(1867)には異例の抜擢で国家老に任じられます。27歳という若さでした。

### ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ エピソード2 戊辰戦争に従軍、活躍するも降伏し隠居

慶応4年(1868)、戊辰戦争が勃発すると、奥羽越列藩同盟が結成され、米沢藩は新政府軍と戦います。高雅は軍務総督を命じられ、列藩同盟の軍議では雲井龍雄の「討薩檄」を示して同盟の結束を図り、越後戦線で参謀の甘糟(かんそう)成らと活躍しました。しかし新潟陥落を受け、戦線から全軍撤退を決断し、新政府軍に降伏しました。

戊辰戦争の終結後、新政府から列藩同盟に参加した諸藩に、「叛逆首謀」の家臣を申し出るよう命じられました。米沢藩では謹慎中の高雅の名も挙げられますが、戦死した色部久長を首謀者として届け出ます。これにより色部家は家名断絶になった一方で、高雅には罪科が及ぶことはありませんでしたが、名を「嘉遯齋」と称して隠居し、一切の要職から身を引きました。